

P・M・Aクラブ

<http://shiotafumio.com>

✉ ptcle@giga.ocn.ne.jp

しおた文男後援会

発行日/平成19年5月
住所/築上郡築上町大字椎田1671-1
発行責任者/高島 虎止
TEL/0930-57-5555

Vol.10

7月の築上町議会 議員選挙における 2期目をめざして 頑張っています。

築上町議会議員 しおた文男



毎日、一生懸命!

わたしの決意

椎田町議会議員として初当選させていたただき現在、合併により築上町議会議員として任期も数ヶ月を残すのみとなりました。7月には合併後、初の選挙を迎えることになりました。議員在籍の4年数ヶ月の間、多くの皆様から町政への色々なご意見やご指導をいただきまして心より感謝いたしております。一年生議員として精一杯今迄頑張ってきましたが、未だに未熟な点は否定できません。皆様の付託に応えることができたのか自問自答の毎日です。私にとって今回の選挙は2期目の挑戦となるわけですが、2期目が一番大変だとよく言われます。しかし、新生築上町のためには誰にも負けない不退転の気持ちで議員活動に取り組む覚悟です。どうぞ、皆様方のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

拜

新生築上町の輝く未来へ向けて

合併から早や1年余りが過ぎました。しかし旧2町の融合はまだまだ実感としてないのが現状だと思います。旧2町のお互いの弱みや良さを分析して補完していくことが重要だと思います。地域エゴをなくし過去の前例に即するのではなく先進的な政策を推進していくことが今後、一番必要ではないでしょうか。住民の皆様からの行政に対する要望を真摯に受けとめて行政に反映していくことが町議としての役割と認識して

新たな風を新生築上町に

日々、町議活動をやっていますが、旧2町の住民の多くの方々から合併後の行政への不満を聞くにつけて今後の議会運営を通じて住民の皆様の願いを実現させていかなければと痛切に感じます。来るべき7月の町議選後からは新たに新生築上町のまちづくりに取り組み合併のメリットを活かし住民の誰もが満足できる政策を実現すべきだと強く思います。合併して良かったと言える築上町に、未来へ希望の持てる築上町へ、一歩でも近づけるよう新たな風を起こします。

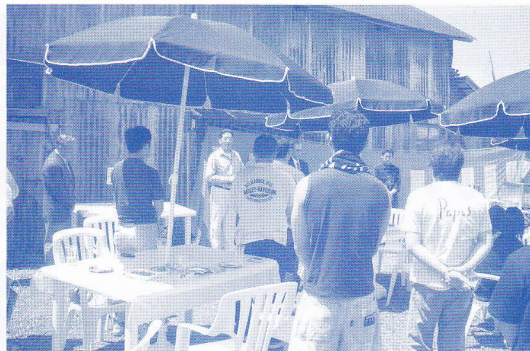


築上町議会議員

しおた文男

2003

4月30日椎田町議会議員選挙で見事に37歳で初当選。446票の重みを実感する。新人議員として議員活動を開始。産業建設常任委員会
椎田町基地対策特別委員会



後援会事務所にて支援者へ当選お礼のあいさつ



法定ポスター

2004

議員活動の報告のため広報紙PMAクラブ第1号を発刊。現在まで9号を発行する。産業建設常任委員会
椎田町基地対策特別委員会



後援会ニュース PMAクラブ



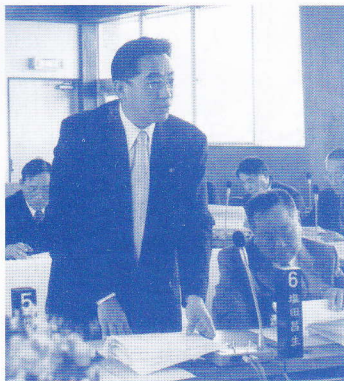
防衛省への陳情



宮城県での合併研修会

2005

商業活性化推進協議会をはじめ6つの協議会の委員として活動。産業建設常任委員会
椎田町基地対策特別委員会



議場での活発な質疑風景



2006

1月10日築城町との合併により築上町議会議員となる。合併特例で任期延長、新たな気持ちで議員活動をスタート。文教常任委員会



後援会事務所にて支援者の皆さんに町政報告



ワークランドこすもす夏祭りに参加

後援会事務所にて

2007

合併後の新しい築上町のまちづくりのため旧2町の融合を第1にした政策の提案と実現をめざして2期目の出馬決意。文教常任委員会
築上町農業委員会



2期目の当選をめざしてがんばろうコール

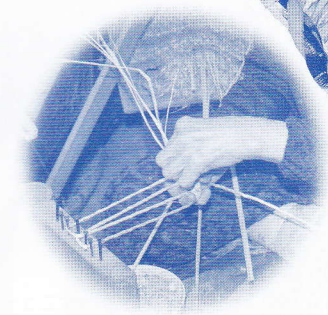
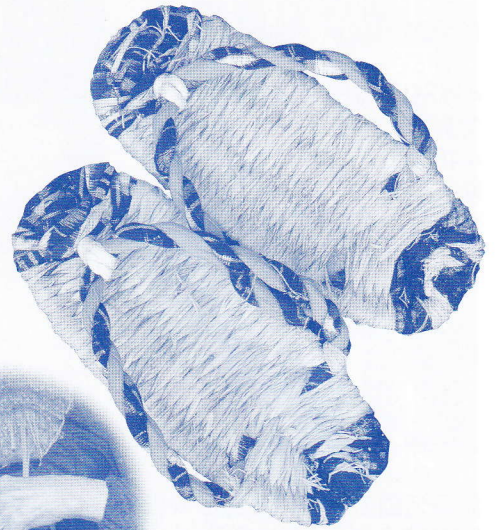


4年間、皆様の「ご支援」の程を切にお願い申し上げます。今後も変わらぬ「ご支援」の程を切にお願い申し上げます。

今昔・中津街道

冥冥之志

今回の八津田村の偉人達を捉え、それぞれが心に思うところがありひそかに努力を重ねていくこと。人知れず何かに励むことと言う意味だそうです。



妙好の花 吉田ミヨ

「藁すべさん

藁になった実はご飯となり
藁で畳や草履をつくり
みんな嫌がる婆を藁すべさ
んが慰めてくれ死んだらこ
の身を焼いてくれる
桜の杖

春になつたら花咲かせ
枯れたら私の杖となり
何処へ行くにも道案内
ほんに有難や勿体なや
我が家
お父さんが船長で 子供が
ボーイ 私はほんとに楽な

もの

決して他人を批判せず、盲人となつても天を恨まず、不平不満を漏らさず、悲運を口にしなかった。縄をない、草履づくりで専念し、それを人に贈った「吉田ミヨ」がいつも口ずさんだ歌だそうです。

その吉田ミヨは明治十五年西八田に生まれ、明治二十二年には宇留津・東八田・西八田の三村が合併(人口一九五一人、戸数三六一戸)し「八津田村」が誕生した年でもあり、明治三十六年宇留津地区の吉田清七に嫁ぐ。留守がちな清七に代わって長男の清の成長を愉しみながら舅や姑(清七の両親)にも仕えていた

が明治四十四年舅が中風にかかつて床に臥してしまふ。翌年に清七は十歳の清と三歳のアサをミヨに託して遠くフィリピンに出稼ぎに。その留守大正二年にミヨは清七の甥(四歳)を家に預かった。大正五年には姑が中風にかかつて床に。大正七年舅は臥床生活八年にして遂に七十

一歳で死亡。舅姑が枕を並べ

て病床にあること三年に及ぶ。

フィリピンへ出稼ぎの夫、清七からの送金は全く無く、ミヨの苦労は筆舌に尽くし難いものがあり、そのうえ大正九年には夫、清七の妹がハワイで死亡した。妹の主人は三人の子供を連れて帰国した

為にミヨはその三人をも預からねばならぬ羽目に陥つた。大正十三年姑は九ヶ年の斗病生活の後に七十五歳で死亡。同年に夫の清七は十三年ぶりにフィリピンから帰国。昭和二年ミヨは清七と共に一家をあげてフィリピンに渡航。

昭和四年にミヨは長男清夫婦と三人で帰国。間もなく清夫婦はミヨを残し再渡航。昭和六年夫の清七は清の妻と孫二人を同伴して帰国。昭和七年に清七の妹の主人死亡の為三人の遺児はミヨが引き取つて養育する事となった。そして昭和十四年夫清七は五十八歳で死亡。

ミヨは永年にわたる苦労のため両眼を病み、視力は次第に衰え、昭和二十三年ついに失明するに至つた。

これより深い信仰生活に沈潜するようになりついに昭和二十八年逝去。享年七十二歳。

仏恩に感謝し、念仏に明けて念仏に暮れ、大往生を遂げたその生涯の奇特な振舞いは婦女鑑として永く輝くであろう。

―同郷で郷里でも教育などの分野で活躍したと言われる平尾安治氏の草案より―
意思強固、人に接しては恭敬親切だったと言われる吉田ミヨ

現在の私達にどのように「生きよ」と言うのだろうか、またミヨは生きる喜びをどのように感じていたのかと思ふばかりです。

編集後記

いよいよ7月に合併後初の町議会選挙が行なわれます。今年には統一地方選挙の年ですでに多くの自治体で選挙結果が出ました。有権者の動向も変化しつつあります。築上町も合併により定数も削減となり激戦が予想されます。合併の町づくりを左右する選挙になるでしょう。

(S)